

ルクセンブルク経済・金融情勢（各種報道取りまとめ：2015年8月後半）

1. 経済

- 欧州委員会が発表した「Digital Scoreboard 2015」（注：EU加盟国における経済・社会のデジタル化の程度をEU独自のDESI指標で評価した報告書）によると、ルクセンブルクの2015年DESIは28加盟国中で9位。インターネット普及率などで高評価を得たものの、ICT技術者の需要に対する人材不足などに課題も残る。（18日付ヴォルト紙）
- 2015年7月の失業率は6.9%（前月は6.9%、前年同月は7.3%）。（24日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 2015年8月の消費者信頼感指数は+2（前月は+3）。（28日付中央銀行プレスリリース）
- 人口高齢化に関する欧州委員会のワーキンググループによると、ルクセンブルクのGDPに占める退職者関連支出は2060年までに55%に上り、ヨーロッパで最も大きな増加が見込まれる。年金受給者数は現在の約17.2万人から約45.6万人（2060年）に達する見通し。対策として、労働力を現在の2倍にし、なおかつ年金資金運用のさらなる効率化が求められる。（29日付ヴォルト紙）

2. 金融

- ドイツ系金融機関HSH Nordbankは、ルクセンブルク子会社を通じてオフショア会社を設立し、顧客の資産状況を税務当局から隠した件で、ケルンの検察当局と2,200万ユーロで和解すると見られる。（19日付ヴォルト紙電子版）
- 2015年5月に当地へ進出したばかりの中国の交通銀行（Bank of Communications Luxembourg）が21日、ルクセンブルク証券取引所に中期債券（MTN）プログラムの一部を初めて上場。（21日付Chronicle.lu電子版および22日付ヴォルト紙）
- Basel Institute on Governance（注：コーポレートガバナンスと法令遵守等の状況を監視する国際的な非営利団体。本部はスイス）によると、ルクセンブルクは2015年のアンチ・マネーロンダリングに関する指標Basel AML Indexに基づく評価で対象152ヶ国中71位、EU加盟国の中では最も高位であった（注：上位国ほどマネーロンダリングの危険性が高い）。要因は、税務に関する透明性と情報交換に関するOECD基準を履行していない点にあると見られるが、この点については、銀行秘匿の廃止を含む複数の制度改革をルクセンブルクは既に実施しており、税の透明性及び税の情報交換に関するOECDグローバル・フォーラムは今年初め、ルクセンブルク政府の求めに応じて評価を見直すことに合意した。（23日付ヴォルト紙電子版）

3. 政府

- グラメーニャ財務相、25日にザルツブルグ開催の独語圏財務相会合に参加。
(21日付財務省コミュニケ)
- グラメーニャ財務相、28日にルクセンブルクにてOECDのサンタマン税務行政センター長と会談。(28日付財務省コミュニケ)

※当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。